



General Partners

Press Release

報道関係者各位

2017 年 7 月 ● 日

株式会社ゼネラルパートナーズ

～JIS 化されたヘルプマーク、知ってはいても利用されず～ 障害当事者へ聞く「ヘルプマークの認知度・利用状況調査」

障害者の就労支援を中心にソーシャルビジネスを展開する株式会社ゼネラルパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：進藤均）は、東京都が作成した【ヘルプマーク】が 7 月 20 日に JIS 登録されたことを受け、運営する調査・研究機関『障がい者総合研究所』にて、ヘルプマークの認知および利用状況に関するアンケート調査を実施しました。その結果、アンケートに回答した障害者の約半数がヘルプマークを知っていると回答したものの、そのうち利用したことのある人の割合は約 2 割に留まっていることが判明しました。

調査の背景

東京都が作成し、2012 年 10 月から都営地下鉄大江戸線で、2013 年 7 月から都営地下鉄など各路線で配布されてきたヘルプマークですが、2017 年 7 月 20 日に日本工業規格（JIS）に登録されました。これに伴い、今後、全国へと普及することが予想されています。そこで、ヘルプマークの認知度や利用状況・その課題を明らかにすることで、さらなる普及と利用促進につなげ障害者が住みやすい社会形成に役立てたいと考え、調査を実施しました。



●ヘルプマークとは…

外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。

<対象者>

- ・義足や人工関節を使用している方
- ・内部障害や難病の方
- ・妊娠初期の方
- ・その他、援助や配慮を必要としている方

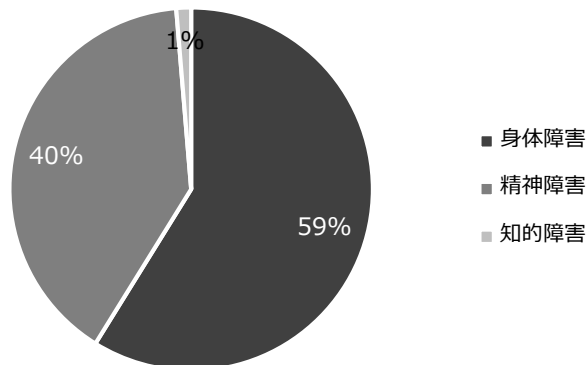
調査概要

対象：障害者 379 名

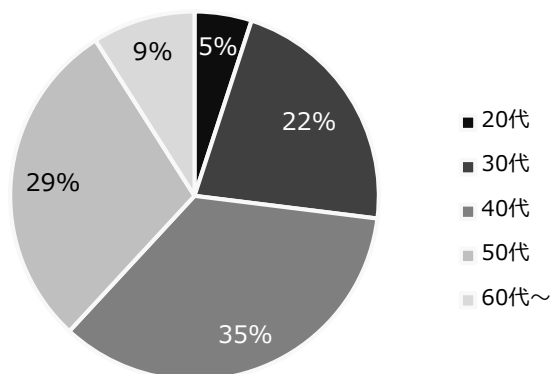
調査期間：2017 年 7 月 7 日～2017 年 7 月 13 日

調査方法：インターネット調査

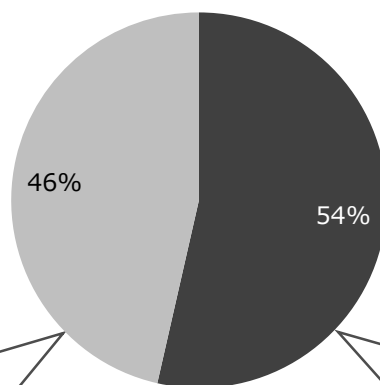
障害区分



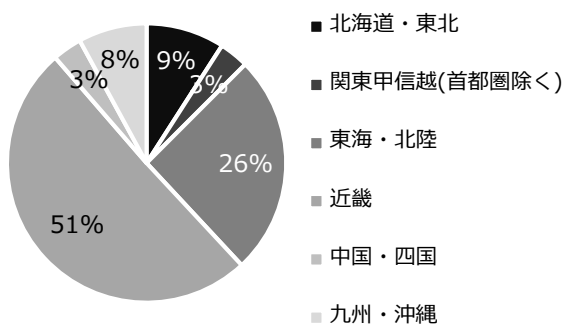
年代



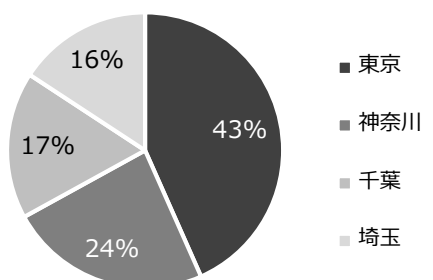
居住地



その他の地域



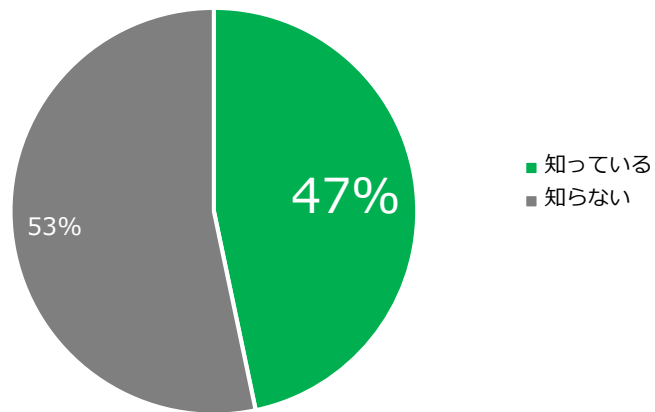
首都圏 (1 都 3 県)



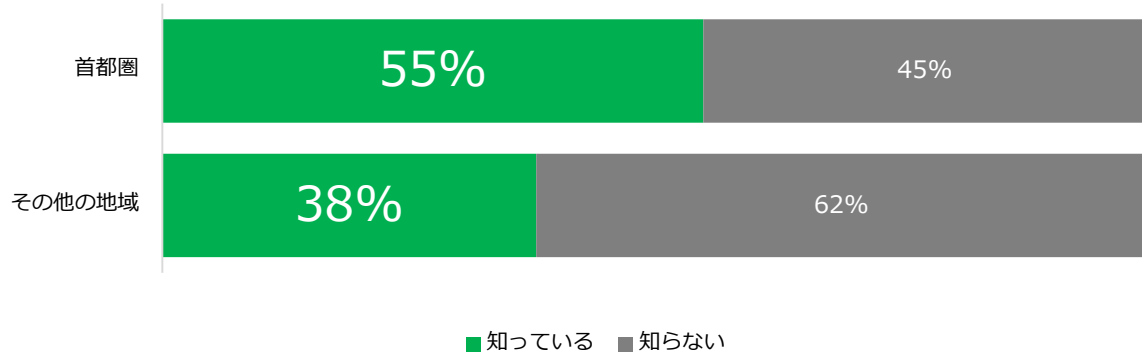
ヘルプマークの認知度

約半数がヘルプマークを「知っている」と回答。
特に首都圏での認知度が高い。

あなたはヘルプマークを知っていますか？



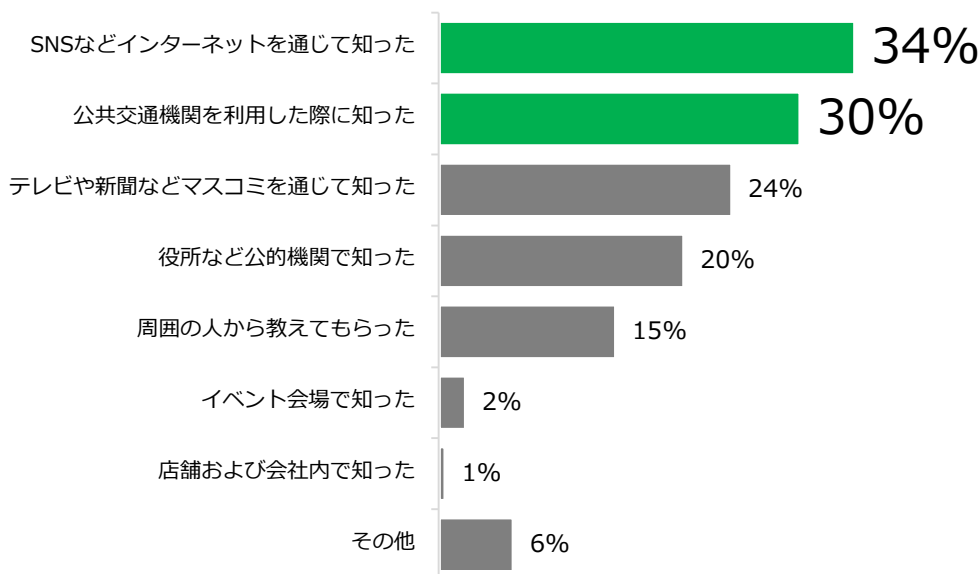
<地域別>



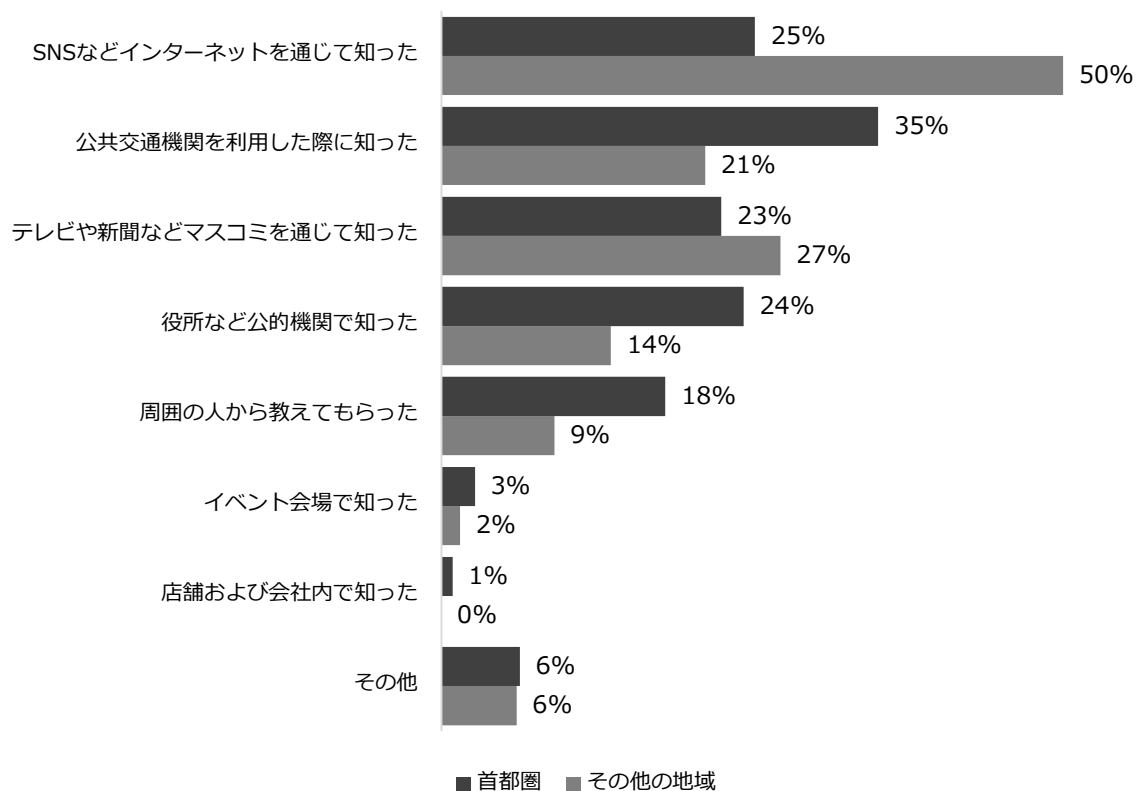
ヘルプマークの認知経路

首都圏では「公共交通機関を利用した際に知った」という人が多く、
その他の地域では「SNS などインターネットを通じて知った」人が多い。

あなたはどのようにして、ヘルプマークを知りましたか？（複数選択可）



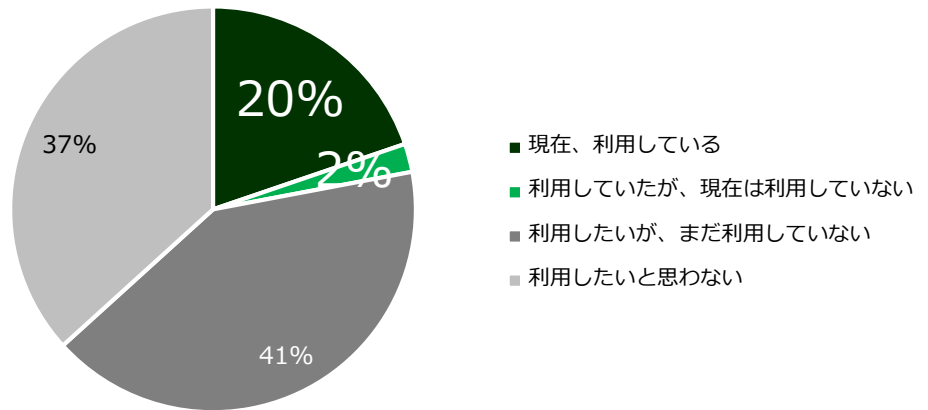
<地域別>



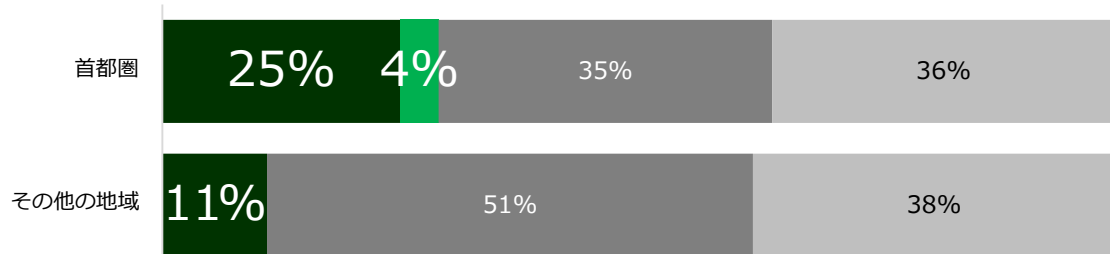
ヘルプマークを「知っている人」の利用状況

ヘルプマークを知っていても、実際に利用したことがある人は 22%。
首都圏でも利用率は 29%に留まっている。

あなたはヘルプマークを利用したことがありますか？



<地域別>



■ 現在、利用している ■ 利用していたが、現在は利用していない ■ 利用したいが、まだ利用していない ■ 利用したいと思わない

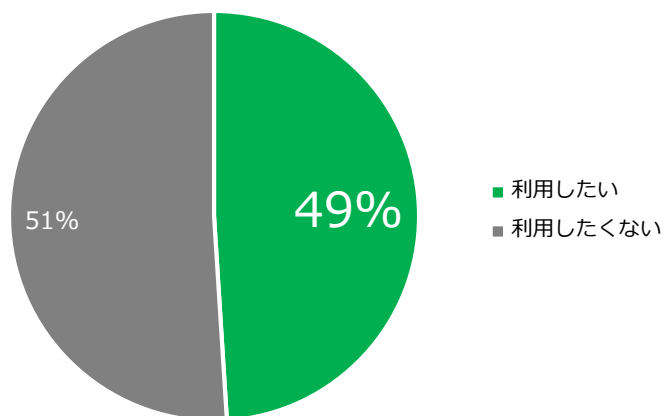
ヘルプマークを使うことで、あなたは、どのような配慮を受けることができましたか？

- ・優先席を利用しやすくなった（40 代/男性/身体障害）
- ・電車の席を譲ってもらうことが多い（50 代/女性/身体障害）
- ・バッグに付けているので、優先席を譲ってもらえないまでも、空いたときは周りに立っている人から「どうぞ」という目で見てもらえる（50 代/女性/身体障害）
- ・うつ病の治療中で、乗り物の中で時折具合が悪いときや、パニック発作が起きて身体中が痙攣してしまったときに、席を譲っていただいたことがある。その場に座り込んでしまいそうだったので、大変ありがたかった（40 代/女性/精神障害）

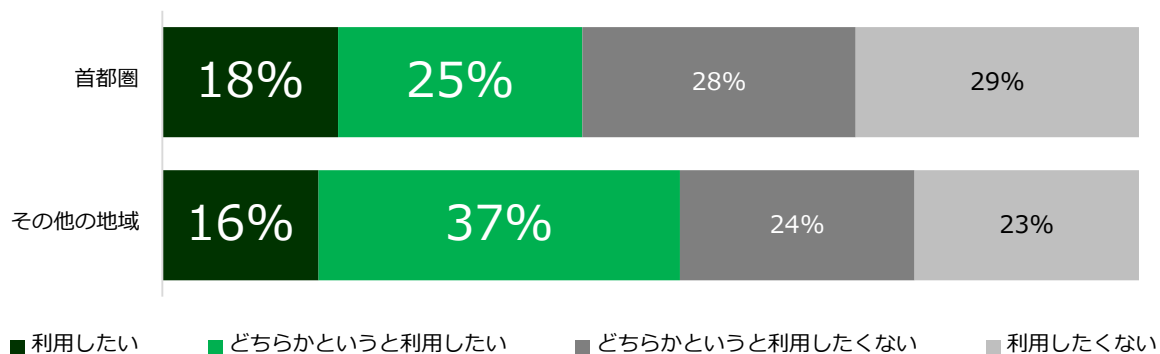
ヘルプマークを「知らない人」の今後の利用意思

ヘルプマークを知らない人のうち、今後「利用したい」という人は約半数。

今後、あなたはヘルプマークを利用したいと思いますか？



<地域別>

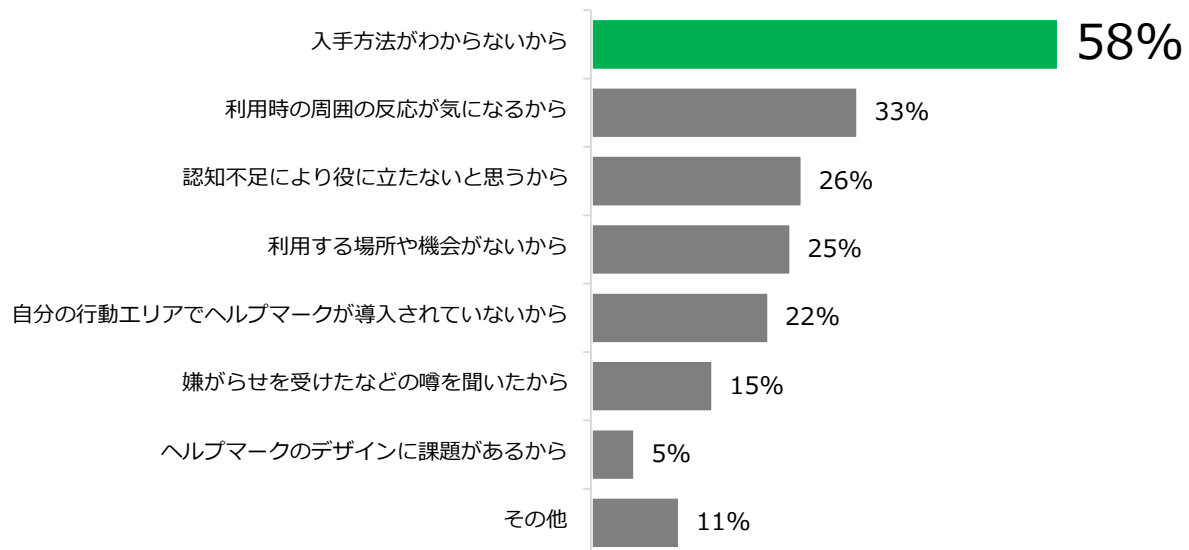


ヘルプマークを利用していない理由

ヘルプマークの入手方法がわからないことで利用できていない人が多い。
また「利用時の周囲の反応」「ヘルプマークの認知不足」を懸念する声が多い。

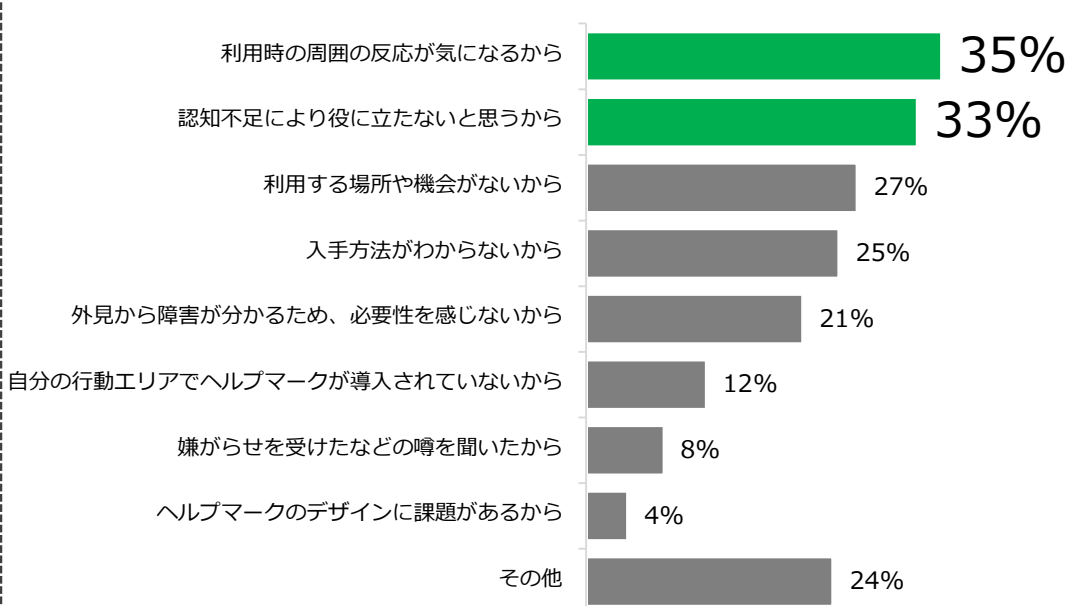
あなたがヘルプマークを利用していない理由は次のうち、どれですか？（複数選択可）

<ヘルプマークを利用したいと思っているが、まだ利用していない人>



あなたはどのような点でヘルプマークを利用したくないと考えていますか？（複数選択可）

<ヘルプマークを利用したくない人>



ヘルプマークについて、改善したほうが良いと思うことを教えてください

■普及について

- ・知らない人がほとんどのため、電車内広告などを通じて広めて欲しい（50 代/女性/身体障害）
- ・職場で啓発活動してはどうか（40 代/男性/精神障害）
- ・TV などでもっとアピールした方がいい（50 代/男性/身体障害）
- ・地方自治体でもっと PR して欲しい（50 代/男性/身体障害）
- ・東京都以外の人間にも認知されるよう、草の根レベルでの周知を徹底して欲しい（40 代/男性/精神障害）
- ・どこで入手出来るのか教えて欲しい（40 代/女性/身体障害）
- ・受け取ることができる場所の拡大が必要（40 代/男性/精神障害）
- ・内部障害でも使えることを広めて欲しい。見た目では分からない障害の場合、ヘルプマークの悪用を疑われそう（30 代/女性/身体障害）
- ・精神障害者にも使えるかが分かりづらい。どういう障害だったら使えるのか周知して欲しい（40 代/女性/精神障害）
- ・ヘルプマークと併せてヘルプカードを持参させることを障害者本人にも周囲の人や家族にも推奨して欲しい（40 代/男性/精神障害）
- ・ヘルプマークを認知していたとしても、どのように障害者と接して良いのか、また関わったがために責任を問われると考える人が多く、その辺をクリアにする必要があると思う（40 代/男性/身体障害）

■サイズやデザイン面の改善について

- ・もっと誰でも分かるデザインにすれば良いと思う（50 代/男性/身体障害）
- ・もう少しデザインをわかりやすいものにしてほしい。ただ可愛いだけでなく気の利いた英文など入れても良い（40 代/女性/身体障害）
- ・マークだけだとわかりにくいので、一言でも“ヘルプマーク”と書いてあると良い（40 代/女性/身体障害）
- ・どういった障害でどういったことに困っているのか、マークをもっと分かりやすくして欲しい（40 代/男性/精神障害）
- ・マークが大き過ぎて取り付けに困る。もう少し小さく携帯しやすいデザインであれば良いと思う（30 代/男性/精神障害）
- ・身に付けやすいデザインと、サイズの種類を増やすと良いと思う（30 代/女性/精神障害）
- ・止め具をしっかりとした物にして欲しい（50 代/男性/身体障害）
- ・シリコン製のため、時折ラッシュ時に挟まると千切れそうになる。コストはかかるかもしれないが、丈夫なものにして欲しい。ピンバッチなど、材質によって付け方を選択できるようになると嬉しい（40 代/男性/精神障害）
- ・ゴムが硬くてすごく付けにくい。もう少し付けやすくなるよう工夫して欲しい（50 代/女性/身体障害）
- ・裏面に障害の特長を書いたとしても、汚くなったり剥がれたりしてしまうので、その辺を改善して欲しい（30 代/男性/精神障害）

■その他

- ・ヘルプマークという名称では、何を意味しているのかが分かりづらい（30 代/男性/精神障害）
- ・マークの種類が多くなり過ぎると、何のためのマークか、見る側が混乱するので、種類は最小限に留めた方が良い（40 代/女性/精神障害）
- ・ヘルプマークを付けている人に対する差別的な世間の目を変えて行かないと普及は難しいと思う（40 代/男性/身体障害）
- ・全国共通にするために他の同様のマークを廃止したほうが良い（30 代/女性/身体障害）

「株式会社ゼネラルパートナーズについて」

障害者専門の人材紹介会社として、2003 年に創業。その後「就職・転職サイト」「障害別の教育・研修事業」「就労困難な障害者による農業生産事業」など、幅広い事業を展開している。2016 年 10 月には障害者アスリートなどにも支援対象を拡大。これまで就職・転職を実現した障害者の数は 5000 人以上に及ぶ。「誰もが自分らしくワクワクする人生」というビジョンのもと、今後は障害者に限らず、不登校、ひきこもり、LGBT など様々な不自由を抱える方々のサポートへ、ビジネスの領域を広げていく。

会社名	: 株式会社ゼネラルパートナーズ	本社所在地	: 〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F
代表者	: 代表取締役社長 進藤 均	設立日	: 2003 年 4 月
URL	: http://www.generalpartners.co.jp/	業務内容	: 障害者専門の人材紹介事業、求人情報事業、教育・研修事業、農業生産事業、調査・研究機関 など

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ゼネラルパートナーズ	広報担当: 田島	〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F
TEL:03-3270-5500	FAX:03-3270-6600	Mail: media-pr@generalpartners.co.jp